제1회 온라인 실천목회교육 “설교와 예배의 실제” 딕테이션(아베미키 강사)

【第1部：講義前半】（13:52～39:59）

はい、じゃあ皆さんこんばんは。
ただいま紹介いただきました、日本の阿部と申します。
皆さんと学びの時間を持てますことを心から感謝申し上げます。
私は、第1回と第3回を担当する予定になっております。またよろしくお願いしたいと思います。

今日は第1回。第1回目は「説教と礼拝の実際」ということで、お話をさせていただきたいと思います。

皆さん、牧会とは何でしょうか？
大きく二つに分けていくならば、説教による牧会、さらに相談による牧会。まあ説教は全体に対する牧会であり、相談は1対1、個別の牧会。こんな風に言えるかと思います。
本日はその中でも、説教と礼拝に注目して考えていきたいと思います。
是非とも説教力、さらに相談力を高める二つのスキル。まあ大変重要な部門かと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

さて、日本では牧会者の世代交代を進めるために、牧会者育成のためのコースを準備いたしました。
今、日本の牧会者は50代の後半、60代の前半が多くなっております。
この牧会者を30代、40代に若返らせるために、2年間にわたる牧会者育成のための教育プログラムを始めました。
これが2023年から始めまして、今第3期になりましたけども、合計71名の若き牧会者候補者が育成されている状況であります。

この表にありますように、2年間にわたって行います。1年目は四つのテーマで集合研修、集まって3日間、もしくは4日間の研修をするようになっております。
例えば上にあるように、伝道の研修、さらに説教力の研修、そして教育力全般にわたる教育、そして牧会相談、相談力の研修。こんな風な四つにわたるその研修を、合計15日間集まって研修をするようになっております。

2年目は下にあるように、霊典そして儀式のあり方、そして課題解決力の向上のための研修、教

会運営について、さらに渉外力を高める。こんな風な項目で、四つの項目、これも4回集まってやります。
トータルこれで八つの項目ですけど、一番下に40日の原理講師になるための、その修練もあります。
この全ての牧会者は、統一原理、そして真の御父様の生涯路程全部、講義できるように今、徹底的に40日間講義の研修をしてきました。
17回にわたって、今公職者が合計636名、636名が40日間の原理講師の研修を受けて、どこでも講義できるようにしております。

このような、この2年間にわたる研修を行いながら、毎月活動のレポートや感想、そして目標を提出しながら、そして班長である指導官が時々この、それに対してコメントを送ります。定期的に面談もしながらサポートしている状況であります。このような取り組みを今やっております。

この内容は、説教力向上のための研修をしている様子であります。
4泊5日。5日間にわたって研修をします。説教学を6講座学ぶうんですね。もう歴史から、この説教のやり方まで細かいところを学びます。
さらに説教案を作成し……説教案の作り方の講座もあり、そして各自が説教案を作成します。班を作って説教演習、一人一人が約20分間の説教をします。
それに対して、それを聞いた指導官がアドバイスをしたり、そして一緒に参加する人たちも感想言ったりしながら、このような演習を3回、こう3周にわたって行います。このような徹底的な5日間にわたる、その説教力を向上させるための取り組みをしております。

参加者は現役の牧会者、ベテランは参加しませんけど、若き牧会者も参加します。そして先ほど説明した、牧会者育成コース候補者ですね、この方も参加します。さらにインターンの新任公職者も参加します。

ですから日本では、牧会者になるために5段階の教育段階があります。
1番目は公職者としての試験、面談をして合格をもらわなければならない。
2番目はトレーニー、1年間の基礎教育を受けます。
3段階目にインターン、2年間にわたる見習い期間があります。
4段階目は正式な公職者として人事が受けるようになります。
正式な公職者になっていきながら、先ほど説明しました牧会者育成コースを終了した人が牧会者資格者、こんな風になってですね、次の人事を待つ。ああ、こういう風になっております。

まあ、このような日本の内容を紹介いたしました。

さて、真の御父母様の御言を確認してみたいと思います。
（真のお父様の御言引用）
「聖日礼拝のときには必ず沐浴再戒し、神様の前に敬礼を捧げ、また聖地に訪ねていって祈祷しなければなりません。神様の前で一人祈祷し、涙を流すその場所は絶対寂しくありません。神様と共にいらっしゃるので絶対寂しくないというのです。皆さんは聖日礼拝時間のために3日前から思いを巡らしつつ準備しなければなりません。そうやって万民の幸福を祈ってあげ、私を通じて万民が蘇生できる復活の権限と生命の因縁を連結させようと身悶えして教会の門に入らなければならないし、神様の前に喉が詰まる心をもって礼拝に参席しなければなりません。」

このように、礼拝の前で心身ともに清めて、礼拝の3日前から精誠を捧げていくということは、日曜礼拝からすれば木・金・土とこんな風に意識して準備しなければならない。そして身悶えしてこの投入する、知恵を巡らせ、心情投入して準備しましょう。こんな内容があります。

さらに、お母様の御言を確認したいと思います。これは2010年に語られたお母様の御言であります。
（真のお母様の御言引用）
「私が10分説教を聞いたのですが、説教は長いと良くないと。感じました。それで可能であれば、説教の牧会は、礼拝の牧会は30分以内に終えれば、初めから最後まで感動が1週間以上続くと思います。あまりに長くなってしまえば何の話なのか分からないまま、会員が帰ることになるので、30分以内に説教を終えて、付随的にシックの活動報告や伝道された人へのお祝いなど心情指導を行うようなプログラムをするのが良いです。そうなれば本当に生き生きした教会になると思います。それでシックたち、新しく伝道された人たちが、教会に今日にでも行きたいという思いが起こらないといけないではないですか。お父様もいつも施す生活をされたと言われるではないですか。ですから教会が霊肉両面の施す立場に立たなければなりません。ですから説教は本当にエキスをシックたちに与えて、シックたちを愛で抱く、そのような雰囲気を作っていけば、もっと大きく教会が発展すると思います。」

日本では10年前に、牧会者の説教の映像を本部で上げて指導したことがあります。200教会ぐらい集めました。私もその指導員の一人として全てを見て、このスタッフがこのコメントをして指導する、そのような取り組みをしました。
200ぐらいの説教の礼拝の時間が、平均43分でした。中には60分以上、90分近いものもありました。シックたちの感想や要望の中の多くは、「説教が長い」という話があります。

皆さん、説教が長いというのは何でしょうか。説教が長すぎるという時間もそうですけど、内容が

まとまっていないというものもあるかもしれません。私たちは短く要約して伝える、そのような能力が必要かと思います。日本では最近は大変短く、コンパクトになっております。

さあ、具体的に礼拝の運営について考えてみたいと思います。
まず礼拝説教の研究ですね。説教者は礼拝説教のために、説教集を読むこともそうですけど、研究のためにですね、3時間以上は費やして、短い時間で分かりやすく語り、心に響くように、この伝えるようにしなければいけない。まあ、このお父様の御言にもこのあるように、研究をしなければいけない。
皆さん、説教や講話の大切な要素は三つあります。1つは簡潔に、2つ目に分かりやすく、3つ目に印象深く。このように伝えることが重要ではないでしょうか。反対に長々と難しく曖昧にこの説教していたら、恩恵は少ないのではないかと思います。

そして、礼拝のチームを作っていくことをお勧めいたします。礼拝より導かれるように、礼拝の各担当者の内外の準備と意思疎通が必要ではないでしょうか。週に一度は牧会者を中心とした礼拝担当者の会議を行うこと。日本でも礼拝準備委員会というものを作って定期的に会議を行います。より良い礼拝を作るための研究をしております。
当日も、礼拝の当日も、この礼拝担当者が集まって、特に説教者、司会者、代表祈祷者、聖歌隊の責任者等々、重要な人たちが集まって祈って出発するようにしております。皆さん、より良い礼拝作りのために、各自のこの担当責任を与えながら、このより良いものを研究していただければという風に思います。

さあ、その次に礼拝の回数であります。礼拝はですね、対象者のレベルに合わせて複数回行うことが望ましいかと思います。当然のことですけど、日曜の礼拝のみならず、平日の夕拝、あるいはまた土曜日の礼拝、時には賛美の礼拝、新規の人たちを、新規ゲストを迎えたオープン礼拝。このような目的や時間なども検討しながら、より深めていただければという風に思います。

さらに、参加者との交流であります。礼拝前後のこの挨拶、握手をするなど、説教者が礼拝に参加した方々と交流することは有効かと思います。心情が近くなり、家族のような温かい雰囲気を作ることができるかと思います。説教者との交流を楽しみに教会に来ることもあるでしょう。
日本のある教会は、牧会者夫婦が日曜の朝、礼拝始まる前に玄関に出てですね、こうに教会に来られる人たちに挨拶をして、握手をして迎える。そのような伝統を一生懸命守りながら取り組んでいる方もいます。このように迎えてくれる。時にはその牧会者は、夫婦だけじゃなくて子供も含めて家族で迎える。こんなことを取り組んでいる牧会者もいて、まあ二世牧会者でありましたけども、大変私も感動いたしました。

牧会者との関係作りが本当に大切かと思います。説教を通しての全体との交流も重要であり、と同時に個別的な交流。ですから牧会者が挨拶を交わしていく、そして声かける、名前を呼ぶ。感謝の言葉や賛美の言葉、笑顔で接する。このような気づかいや心くばりをすると、まあ教会の雰囲気は温かくなるのではないかと思います。

さあ、その次に礼拝の前の、礼拝開始前の内容です。新しい方、もしくはお久しぶりの方も来るかもしれません。不安とか緊張抱えて来ることもあります。全スタッフが明るく歓迎する文化を作ることが大切かと思います。
礼拝が始まる10分前、もしくは礼拝が始まる30分前に集まって、みんなが祈って臨む姿勢があったらいいのかなと、こう思います。
そして開始前には音楽を流して、映像を流す、こういうことも良いかと思います。聖歌隊の賛美、そして時にはクラシック等々、生演奏をしながらその場を盛り上げることも良いかと思います。
日本では本部がオリジナルのBGMもいくつも作っております。このリラックスした雰囲気を作るBGM、時には瞑想する時に合ったBGM、多く作って現場が使えるように、まあ提供もしております。

さらに礼拝の終了後であります。礼拝が終わった後の時間の工夫も大切かと思います。食事会や、あるいはまた茶話会を準備して、お互いに交流しやすくするということも、皆さんの教会でもやっているかと思います。クッキーやコーヒーなどを準備したり、くつろいで団欒する環境を作ることも重要かと思います。
礼拝というものは、説教というインプットの教育だけでなく、この交流というアウトプットのこの教育が大変重要かと思います。多くのシックたちはコミュニティの場として教会に来られるので、交流する場、これ大変重要な内容かと思います。ですから礼拝は、インプットとアウトプットのバランスが重要かと思います。
例えば説教の直後に、説教の直後に2人ペアになって、もしくは3人1組になって感想や意見を表現する時間を、短くても取ってみたらどうでしょうか。また礼拝後にグループを作って交流する。このように全員が話をするという雰囲気を作れるように、まあ工夫が必要かと思います。

さらに所要時間ですね。説教者は語られ、語りたいことがたくさんあったとしても、説教時間が長くならないように注意することが必要かと思います。礼拝全体の時間は60分以内にまとめ、いろいろなプログラムがあったとしても90分以内にまとめるということをが適切かと思います。
説教はお母様の指導があったように、可能な限り30分以内にすべきではないでしょうか。と言っても短ければ良いというものではありません。短くても内容が濃い説教をすることが重要です。内

容が濃い説教というのは印象深く残る説教です。メッセージが明確でないといけません。そう考えてみると、短くしようとすればするほど、説教者はよく準備しなければならないということです。

そしてさらに、復興のための工夫も大切かと思います。神霊復興させるためには説教だけでなく、礼拝全体の構成要素として工夫が必要かと思います。聖歌隊の賛美というものは、まあ説教を教助する大切な役割であります。参加者の心、心情を整えて歌の歌詞を通して神様の心情をストレートに伝えることができるからであります。
それ以外も映像準備したり、瞑想の時間を入れたり、このようなこう、取り入れることも重要かと思います。いずれにしても、神霊に満ちた礼拝をどう作り上げるかということが重要になるかと思います。

ここに聖歌指導の手引き、さらに礼拝司会者の手引きをはじめ、多様な教育コンテンツを活用しましょうとあります。
実は日本では「教育コンテンツサイト」、「教育コンテンツサイト」というサイトを作って、公職者のみが使用できるサイトがあります。そこには講義資料、そして映像、パワーポイント、そして各種手引き、いろいろな内容を2000以上のコンテンツがアップされております。
そこに礼拝に関するこの証や取り組み、11条について、時には礼拝の式次第の作り方、礼拝の週報の作り方、そして式次第の進行のスライドとかですね。いろいろな礼拝に関する内容も本部で研究してそこにアップしております。
このように、この先輩牧会者を中心として後輩たちにこのようなコンテンツを、まあ準備して相続させていく、こんなことも重要かと思います。

では、ここまでが前半であります。ここまでが前半でありますが、今からですね約短い時間ですけど5分ほど、2人ペア、もしくは3人1組になって、短いですけど思ったこと感じたこと、感想をね、共有する時間を持っていきたいと思います。少し前半には一つの区切りがいいところなので、ここでやっていきたいと思います。
はい。じゃあよろしくお願いします。ブレイクアウトルームですかね。

【第2部：講義後半】（48:33〜77:15）

はい、ありがとうございました。では、後半の講義をね、させていただきたいと思います。

今度は礼拝説教のポイントについてお話しをしたいと思います。
まずこの、どのように話をするかということが大変重要かと思います。どんな内容話すの……話

すのかという内容も当然重要ですけど、話し方によって伝わるか、相手が感動するか決定いたします。

まず一つは、尋ねるように語りかけることが必要ではないでしょうか。説教では聴衆に尋ねて考えさせることが大切になります。「皆さんどのように思いますか？」「これは何だと思いますか？」「そうですか。それでは、ないですか？」と尋ねるとですね、自分のこととして考えるようになります。
出だしとそして最後は質問を活用することも有効かと思います。例えば出だしに、「皆さん真の愛とはどんな愛でしょうか？」と質問して始まります。最後の、説教の最後に「皆さんも真の愛を動機に行動してみませんか？」と言いながら締めくくる。このようにこのスピーチのプロたちは、質問で始まり質問で終わる。このようなことを多用しております。質問されると無条件に答えを探します。質問に合わせて心の方向性が決定します。参加者がそのことを通して一つになっていく。
説教は一方向にならないようにしなければいけません。一方向になると、ただの説明会になってしまうかもしれません。そこで有効なのは質問を活用する。説教もそう、相談牧会もそう、質問が大変重要になります。

そしてこの説教する時は、強弱をつけること。緩急をつけることが大変重要になります。語る時に強く弱く、早くゆっくり。時には間の取り方。身振り手振り。こんな変化があると、より印象的な説教になることと思います。力強く説教するだけでなく、極端に小さな声でゆっくりと語るなど言葉に強弱をつける。声の高低。話すスピード。間を置いたり。
このように大切なキーワードを繰り返し繰り返し伝える。間の置き方も長く置いたり短く置いたり。このような間の取り方によって神霊的な感化力が高まる。こんな風に言うことができます。

皆さん説教聞いて、シックたちが居眠りすることはないでしょうか。説教者は眠らせない工夫、あるいは引きつける力というものが必要ではないでしょうか。スポーツ選手も強弱があるスポーツ選手。ダンスを踊るにおいても身振り手振りが豊かにあると、見てる人は感動するように、説教者も言葉、声、体の使い方を工夫することも大変重要かと思います。

また、短い文章にすることが重要です。語られている内容が、文章が長いと主語と述語が合わなくなってしまうことがあります。分かりやすい人の話は文章が短い。そして短い文章を接続語でつなげていく。
長い文章になりやすい人は文章書かない人ですね。原稿準備しない人です。ですから短くこの文章つなげていく、まあこんなことが大切ではないかと思います。

また皆さん、口癖に気をつけることが重要です。言葉の最初に「あのー」「えー」というフレーズが

頻繁に出てくると、聴衆が不快に感じたりすることもあります。その癖が気になって大切な話が頭に入ってこなくなると。語尾に、言葉の最後に「なんとかね」「なんとかよ」という言葉がつく方も多くいます。親しみを込めた言葉なので悪くはないんですけが、あまり多すぎると少し違和感があるかもしれません。
口癖、意識して少し少なくしたほうがスッキリ聞こえます。皆さんの説教を、映像を改めて視聴して、自分の話が違和感がないのか、もっと聞きやすい話し方ってないだろうか。こんなことを振り返りながら学ぶ時間も必要かと思います。

そして注意したい表現があります。やはりユーモアのある表現や冗談も適度に有効ですけど、度を超してしまうのは気をつけなければいけない。微笑ましい冗談になるよう心がけながらね。時には失言があります。霊的生命を傷つけることもあるかもしれません。牧会者として口から発する言葉に最新の注意を払うことが重要かと思います。
天災とか事故の内容を話す場合、犠牲者やその家族が傷ついたり不快に思ったりするような表現はしないよう配慮する。
証をするにしても個人名、固有名詞を具体的に語る時は注意が必要です。いくら良い話だからといって、当事者が公に知られたくない事情を話すと、プライバシーの信頼にもなるかと思います。それが信頼を失うきっかけになります。

例えば補足として説明しますけど、守秘義務というのもあります。「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」というこの「何でも報告しましょう」という大切なルールがありますけど、しかしこの牧会者が知り得た各個人のさまざまな苦しみや悩みというものを、他言（たごん）してはいけない。このような守秘義務も徹底しなければいけないかと思います。まあスタッフでどうしても共有しなければならないその事情の時は、集団でその守秘義務を徹底する。一般のシックたちにその事情を話したりしないように気をつけることも重要かと思います。

かつて私が説教で祝福の話をしたことがあります。その時に祝福の話をすると、下を向いてしまうシックがいるんです。そのシックを見てみたら、4回祝福が壊れた人でした。このようにどんな説教するかによって、デリケートなその心を傷つけたりすることがないように、このような配慮も必要かと思います。

また日本には韓国牧会者が多くいます。長く牧会していても、日本語がまだ不十分な方もいます。何を言っているか分からないというような残念な状況もあります。常に、より良くこの言葉を洗練する、このより良くする意識が必要ではないか、と思います。

さらに、説教者の行動についてであります。先ほども説明しましたように、身振り手振りを入れる。

声の強弱をつける。声の変化。表情の変化。まあこれも「全身で説教する」。このような意識を持っていただければと思います。
そして、動きの癖にも気をつけましょう。語る時、体が上下に揺れたり、左右に揺れたり、時にはポケットに手を入れたり、そのような癖がある場合があります。気になって内容に集中できないシックが出てくるかもしれません。これも私たちの説教の映像を見返して、自らチェックをしながら、より良い姿勢、より良い行動になれるよう努力いたしましょう。

さらに、スクリーンを使って説教することがあるかと思います。特にパワーポイント。この説教者とスクリーンが離れすぎて、参加者が左右を首を振りながら説教を聞くということもあります。スクリーンと説教台が遠いからです。これを近づけて、可能であればスクリーンの近くに立って説教したほうが良いでしょう。
離れて説教した場合は、参加者はスクリーンと説教台の2箇所を見ることになり、スクリーンがメインになって説教者を見ないままに聞くこともあります。説教は本来、参加者と顔合わせて、表情や声、波動などを伝えるものです。スライドはあくまでも補助的なものであり、説教者の言葉を補足するものだということを意識していただければと思います。スクリーンにばかり注目させると、知的（ちてき）には理解しても、神霊的（しんれいてき）には薄れていく可能性があります。説教者はできるならばスクリーンの近くに立ち、基本は常に前を向いて説教したほうが良いかと思います。
パワーポイントの良さは視覚に訴えていくインパクトがあります。短い映像を使うことも理解を深めます。しかし短所もあります。情報が多すぎてしまい、説明会になってしまう傾向があります。説教はあくまでもメッセージ、ポイントのメッセージが重要なので、この使い方も気をつけなければいけないかと思います。

説教の内容の話です。まず一つ、説教の題目（だいもく）が適切でしょうか。メインメッセージです。何を言いたいのかというポイントが明確にされた題目になっていくことが重要です。例えば「原理の観点」では曖昧な題目です。「侍る（はべる）」とか「伝道の勝利」、あまりにも簡単な題目です。「イエス・キリストの誕生」、これも平凡な題目です。例えば「イエスの使命とマリアの母子共助」とか、関心を引きつけるキーワードがしっかりとはいっているか。この題目を見てシックたちが、「ああ、何だろう」と関心を持ったり、「どんな内容かな」と想像してみたり、「もっと知りたい」というような、この気持ちを引きつける題目にすべきではないかと思います。

さらに説教の始め方ですね。最初に主題を中心として何を伝えたいのか、なぜこの主題にしたのかなどね、一言で全体像を説明したほうが聞く心構えができて分かりやすい。参加者が自分との接点を考えたり、自分に必要な内容として捉える動機付けになるわけです。前置きもなく本題を

話し始める説教は、唐突（とうとつ）さが印象的であり関心を引くこともありますが、理解しにくい人も多く出てくるかと思います。

さらに知情意（ちじょうい）のバランスを持った納得に導くことが必要です。御言を理論的な解説と解釈を通して、「ああ、なるほど」という知的納得に導くこと。さらに身近な生活に根ざした具体的な例、あるいはまた事例を通して情的に納得に導くもの、「ああ、そういうことってあるよね」という。さらに生活の中で何を目指すのかという方向性、何を実践したら良いのかという行動への第一歩、このような意的な納得へと導いていく。
皆さん、このように知的タイプの人もいます、情的タイプの人もいます、意的タイプの人もいます。この人たちが満足できるような「真美善（しんびぜん）」、さらに「愛」を感じ取れる説教をまあすることが重要かと思います。

さらに、陽陰（よういん）の両極のバランスを持った事例も必要かと思います。例えば皆さん、感謝と不平不満。喜びと義務感。発展と後退。強みと弱み。信仰生活と不信生活など、わざと両極の事例を提示しながら説教するんですね。そうするとこの選択できず立ち止まった人に、選択して行動する意欲を与えることができる。
説教で大切なことは「行動してみよう」という意欲。意欲を与えることが説教で本当に重要なことではないでしょうか。皆さん説教通して「やらなければならない」気、義務感の気では長続きしません。「やらなければならない」ではなくて「やる気」です。意欲に導く。
意欲のみならず「やれる」気。「やれそうだ」「私はやれそうだ」。これエフィカシーとかですね、自己効力感、まあこんな風にも表現しますけど、このように導くことができるように、そのシックたちの心に火をつける。まあ、こんなような説教ができたらいいかと思います。

さらに悔い改めに導くためには、悔い改めというのは自己の足りなさを自覚するよりも、神様の愛に対する気づき。神様の愛に対する感謝の心が強まることが大切かと思います。できないことに対する反省というよりも、神様の愛に応えることができなかった、また悔い改め、そのような本質的な悔い改め。神様の視点、心情から感ずる孝情（ヒョジョン）、孝情から来る悔い改めに導くことが重要ではないでしょうか。「私がなします」「私がやりたい」。このような自主的な意欲を引き出す、そのような説教になっていただければと思います。

説教のまとめですね。最後が重要です。説教の着地です、着地。説教の締めくくりが重要かと思います。説教の最後は今日のまとめとして、ポイントを再確認することが必要かと思います。この時のポイントは一つから多くても三つ。三つ以内のキーワードにまとめると、シックの心に残ります。「説教を一言で言うならば何なのか？」。キーワードが心に残るように繰り返し強調することも

大切かと思います。
例えば「真の御父母様を証しする子女になろう」という題目で説教した場合、説教の最後に「真の御父母様を証しする子女になるためのポイントはこれとこれとこれです」と一言で訴えるとかね。説教の題目が興味深いものであっても、明確なキーワードに結論づけないと題目の意味がありません。だから説教を通してゴール、何を悟らせ、どんな行動変化に導きたいのか、これをですねしっかりと伝えていただければと思います。参加者が説教後に「今日の説教はこれだったよね」とお互い同じ言葉が口から出てくるように、表現できるように牧会者が伝える力が大変重要かと思います。

じゃあ最後にまとめとしまして、今日話した内容のポイントは、まず説教のメッセージ性ですね。神霊的なメッセージであること、あるいは原理的なメッセージであること、聴衆への配慮をしっかり持った説教にすること。
そして説教の組み立てというものは三つあります。1つ目は、聴衆の心を掴む「導入」です。導入がこう、関心を持って行けるように導く。2つ目が、メッセージが伝わる「本論」です。ストーリー性があるのか、話の一貫性があるのか、例話と釈義、御言、そして体験があるのか。そして3つ目が、この「結論」です。実践へと導く結論がね、力強いメッセージがあればいいかと思います。

この説教案作りのために、この赤字で書いてある右下の内容は大変重要になります。まず次の説教はタイトル何にするか。主題は、大きな主題は何か。原理のキーワードです。ゴールは何か、狙い。何を狙いをもって定めて説教するのか。そして御言の拝読、どれにするか。ストーリー展開ですね、序論、問題定義、本論、ストーリー展開、最後は結論です。

日本では、この説教用例集を、説教用例集を、120の説教をまあ準備しました。これ3年間かかりました。10名の先輩牧会者が、原理の統一原理、創造原理的な、堕落論的な、復帰原理的な、このさまざま箇所のまあ説教。そしてお父様の生涯路程をテーマにした説教。この120の説教を読むだけでも勉強になる。まあ、このようなこともね、準備いたしました。
また伝える力をつけましょうと。まあ話し方、ジェスチャーの仕方、構成力、そして言葉、キーワード。

まあ、最後に各自がチェックするポイントを準備いたしました。改めてしっかり読んでいただければと思うんですけど、チェックポイントだけ読んで最後まとめたいと思います。
まず1番の題目は、題目が説教の内容に興味と関心が持てるものなのか。長からず短からず、題目大変重要です。
2つ目、一貫性。題目、狙い、引用聖句、ストーリー、例話と釈義、結論が一貫したものになってい

るか。引用聖句はストーリーの中で用いることができるものなのか、等々ですね。これを大切にチェックしていただければと思います。
3つ目は導入です。冒頭にこれから何の話をするのかの呼び水となる導入。例話などね。で、問題の定義がなされているか。
そして4つ目、例話。ストーリーに例話、一つのまとまった話、人物でもいいです、出来事でもいいです。この証ですね。その釈義、解釈。まあ意味とかポイント、成功・失敗の含有と。まあこういうものがね、入るか。この例話がですねしっかりある説教は、身近なものとして響きます。実生活に、実生活に生かしていく導きになります。御言だけ並べてもなかなかこの深く入らない場合があります。この例話のこの活用、これをぜひ研究していただければと思います。
5番は易しい表現ですね。用語聖書の話、日常生活で実感できるような噛み砕いた表現、事例を使って説明しているか。
6番はテーマに集中しているか。話をあまり分散させないで、テーマと要点が絞られて、そのテーマに関して深く入れているか。
7番は整理ですね。導入、本論は第1、第2と話が整理できているのか。
そして8番は導入と結論の整合性。皆さん、ここが重要です。結論がストーリーの本論から飛躍したものになっていないか。題目、そして導入部分と問題定義したことに対して、結論部分でしっかりと答えているか、このことが重要です。最初と最後が繋がっていなければいけない。このことがなかったら、この一貫性がないといけないです。
最後は9番、実践への誘導ですね。信仰的教訓がしっかりあるか、そして実践を促す結論になっているか。まあこのようなことが大変重要になります。

皆さん、時間の関係で全部こう読むことはできませんでしたけど、読んでいただいて、自分自身の説教の作り方、あるいは説教がこのような一つ一つにしっかり合った内容であるか、このことを再度確認していただければと思います。
日本には多くの資料があります。しかし、まあ翻訳されていないものばかりなので、なかなかすぐは活用できないかもしれませんけど、必要であればいつでも皆さんに提供していきたいと思っております。
今日は実践牧会なので、説教の作り方、礼拝のあり方という外的な内容を中心とした話でありましたけども、ぜひ今まで以上に素晴らしい説教と、また復興する礼拝が、皆さんの教会で展開できるように心から願いながら、私の講座を終わりたいと思います。